



KEIO 150
Design the Future

150th Anniversary in 2008

創立150年記念事業の完遂に向けて

― 記念事業募金終了と今後の事業展開のご報告 ―

2008年、慶應義塾は創立150年を迎えました。これを機に、2005年9月から10年計画で創立150年記念事業（以下、記念事業）に取り組んでいます。また、創立150年記念事業募金は、2005年10月から開始し、当初の予定通り2010年9月末をもって終了しました。社中の皆さまにはご支援・ご協力いただき誠にありがとうございます。本稿では、記念事業募金の終了と、記念事業完遂に向けての今後の計画をご報告します。

とじていました。

このうち寄付金については、皆さまのご支援により目標額を超える水準まで到達し、285億円のお申し込みをいただきました。しかし、その他の事業資金の部分については、2008年以降の世界的な経済危機に端を発する深刻な資金運用環境のもと、義塾財政の経常収支の悪化という状況に立ち入ってしまいました。

このような状況を精査した結果、記念事業を当初の予定通り実施するのは困難と判断し、実施スケジュールの見直しに取り組むこととなりました。そして、義塾財政の現状を見極め、記念事業を慎重に検討した結果、まずは学生、生徒、児童および患者各位の安全を図る事業を優先して推進することといたしました。記念事業として計画された個々の事業は、義塾の将来にとってどれも重要な意味をもつものです。義塾財政の改善に努め、資金の都合がつき次第、計画された事業すべての遂行を目指してまいります。

新たな財政状況下での実施スケジュール見直し

記念事業は、当初、総額900億円規模とし、募金目標を250億円と定め、残りの資金は、義塾の通常の経常費ならびに自己資金運用からの調達と借入金によって賄うこ



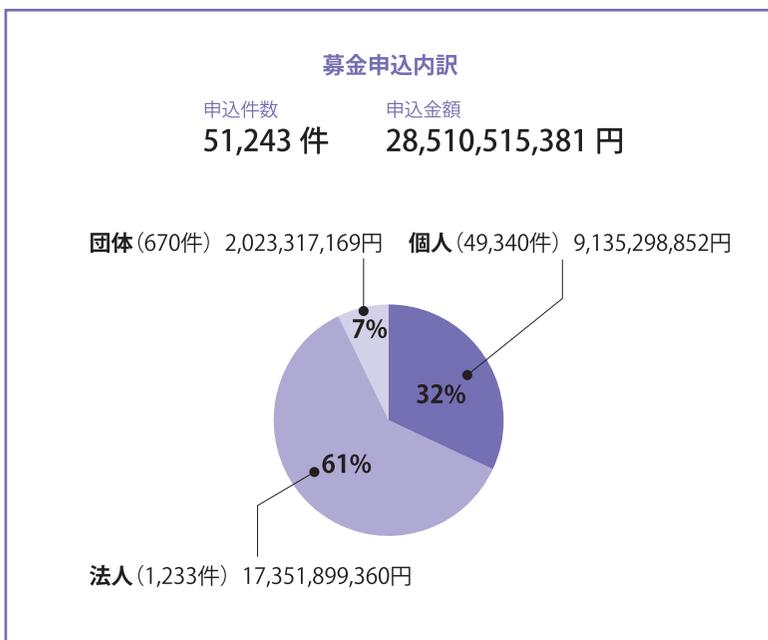
創立150年記念式典

慶應義塾創立150年記念事業募金のご報告

募金活動は当初の予定通り2010年9月をもちまして終了しました。ご支援・ご協力いただきました多くの個人・法人・団体の皆さまに深く御礼申し上げます。

募金申込件数・金額（2010年9月30日現在）

(1) 申込件数・申込金額



(2) 使途指定寄付

2009年2月から特にご関心のあ
る記念事業にご寄付いただけるよう、
未来先導基金全般、福澤諭吉記念文明
塾運営基金、未来創造塾運営基金（仮
称）、信濃町新病院棟建設資金、中等
部体育館・プール建て替え資金へ使途
を指定したご寄付を承りました。



寄付金の配分計画（*使途指定寄付を除く）

使途指定以外のご寄付（2010年9月末現在ご入金額
252億円）については、左表の通り各事業に充当させて
いただきます。

事業名称	配分金額
未来先導基金 (福澤諭吉記念文明塾運営基金含む)	33
南校舎建て替え (三田)	25
協生館 (日吉)	65
3号館 (南棟) (信濃町)	10
新病院棟 (信濃町)	40
教育研究施設整備・環境改善 (矢上)	10
未来創造塾 (湘南藤沢)	10
新一貫教育校 (横浜市青葉区)	55
中等部、女子高等学校、湘南藤沢中等部・高等部の 環境・施設の質と安全性の向上	15
計	263

(単位：億円)

寄付金充当状況

ご入金いただいた寄付金は、配分計画に基づき各事業に充当させていただいています。未来先導基金への組み入れや協生館建設費用への充当の他、建設中の南校舎や中等部体育館・プール建て替えおよび湘南藤沢中等部・高等部教室棟の増築費用に順次充当しています。また、これから着工する事業に充当予定の寄付金は、基本金（注1）への組み入れや受配者指定寄付金（注2）などにより万全な形で保全しています。

〔注1〕学校法人会計基準では、「教育の充実に向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額」を第2号基本金としています。
〔注2〕学校法人等への寄付を促進するために設けられた制度で、日本私立学校振興・共済事業団が所管する事業です。私立学校の教育研究の発展に寄与するために、企業等から寄付金を受け入れ、寄付者（企業等）が指定した学校法人へ配付するものを指します。

顕彰

(1) 芳名録

ご寄付を賜りました方々のご芳名は「芳名録」に記し、慶應義塾の歴史にとどめます。また、創立150年Webサイト (<http://keio150.jp/>) の「WEB芳名帳」にもご芳名を掲げております。なお、寄付金額1万円以上の方については、慶應義塾の機関誌である『三田評論』に寄付金額とご芳名を掲載させていただいています（WEB芳名帳、『三田評論』はご希望の方のみ掲載）。

(2) 寄付者銘板（ご芳名の掲出）

創立150年記念事業募金へご寄付いただいた皆さまの

ご厚志に感謝申し上げます。

銘板を作成し末永く慶應義塾にご芳名を掲出いたします。掲載場所ならびに掲出時期については下表の通り予定しています。

	団体	個人		法人
	金額の定めなし	50万円以上	150万円以上	150万円以上
場所	日吉キャンパス 日吉記念館1階	三田キャンパス 南校舎5階 多目的ホール前		
時期	2011年 6月頃（予定）	2011年 3月頃（予定）		

※累計150万円以上の寄付をいただいた個人の方は、日吉記念館にもご芳名を掲出させていただきます。

記念事業の継続

創立150年記念事業の完遂に向けて、今後も活動を継続してまいります。創立150年記念事業募金の申込受付は終了しましたが、当記念事業に対する皆さまの引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

〈お問い合わせ先（募金について）〉

慶應義塾 基金室

電話・・・03（5418）0150（平日9時～17時）

メール：bokim@keio150.jp

今後の事業展開

〈三田〉新教育環境のさらなる充実と交流環境の創出

三田キャンパスでは、創立100年の際に建築された南校舎の建て替えが進んでいます。

建て替え工事期間中の代替教室となる南別館はすでに完



南校舎建て替え後のイメージ

成し、南校舎は2011年3月に竣工予定です。

新校舎には教室の他、グループ学習室等塾生のための施設が拡充されるとともに、塾員、教職員など社中が交流できるスペースも配置されます。三田にお越しの際には、お気軽にお立ち寄りください。ご利用方法等の詳細やお問い合わせ先についてはP.36をご覧ください。

なお、西校舎および研究室棟建て替え事業については、新しい南校舎が完成後、あらためて具体的な実施計画を検討することとしました。

〈日吉〉日吉記念館の建て替え

2009年度に耐震補強を施した現在の日吉記念館は、当分の間使用します。建て替え後の施設は、収容人員1万人となり、入学式、卒業式、塾員関連の行事に利用します。アリーナ面積が大幅に拡大されることで、体育施設の充実に図られます。

また、日吉記念館の建て替えと関連して、体育施設の充実に図る蝮谷体育館が、2009年11月に竣工しました。

〈信濃町〉新病院棟建設に向けて

信濃町キャンパスでは、医学部・病院の構造改革に基づき世界トップレベルの診療、研究、教育を実現するとともに、21世紀を先導する医療施設の再構築を図っています。新病院棟建設計画は、信濃町キャンパス全体の再整備事業の中核的な事業として計画されています。

医学部・病院の将来構想の具現化として、「臨床研究棟」



新病院棟完成イメージ

(2008年1月竣工)に始まり、現在は、別館跡地に「3号館(北棟)」(2011年1月竣工予定)を建設中です。この3号館(北棟)は、臨床研究棟と連携して学部間・大学間に及ぶ先端的臨床研究の発信と異分野融合を推進するための人材育成の拠点として、大きな役割を果たしていることが期待されています。

また、「3号館(南棟)」(2012年4月竣工予定)には、病棟部門の他、予防医療・健診部門、リハビリ・外来化学療法部門、PETを含めた最先端画像診断部門とその製剤部門などを配置予定です。3号館完成後、1号棟の病棟部門や2号棟、リハビリ施設や情報システムなどの機能を

3号館に移転したうえで解体し、新病院棟建設に備えます。

新病院棟を実現することによって真の「基礎・臨床一体型医学・医療の実現―世界に冠たる大学病院―」を達成できるような教職員一丸となって研鑽を重ねていきます。

〈天上世界基準の人材育成と設備の充実

矢上キャンパスでは、



33・34棟建て替え後のイメージ

世界トップクラスの教育・研究拠点実現を目指し、事業を推進しています。博士課程の大学院生の多角的支援制度や大型プロジェクトリーダー養成プログラムの設置などが計画されています。

これらの教育・研究改革の実行拠点としてのテクノロジセンター(仮称)(2012年2月竣工予定)と併せて、塾生の安全を図るために教育・研究施設整備(33・34棟建て替え)事業(2013年度竣工予定)を行う予定です。

〈湘南藤沢〉気品と智徳を育む「未来創造塾」の創造

全人教育を実践するための「人間交際」^{じんかん}の場として、塾生と教員が寝食をともにし学ぶレジデンス・エデュケーション・エデュケーションの場

を提供し、併せて、滞在型教育プログラムを実践します。すでに2009年度から滞在型教育プログラムとハウス制度を試験的にスタートさせています(レジデ



ハウス制度の一環として開催したスポーツイベント

ンシャル施設については、2012年春には土地区画整理事業が終了する予定で、現在、建設計画策定中。

新しい一貫教育への挑戦——

2013年4月に小学校を開設し、

新しい小中高一貫教育の展開を目指す

当初計画を一部変更しました。

○2013年4月に横浜市青葉区において小学校の開設を目指します。

○新小学校の卒業生は湘南藤沢中部部・高等部に進学するものとします。

○新小学校と湘南藤沢中部部・高等部の連携により、わが国の初等中等教育を先導する新しい小中高一貫教育の実践を目指します。

今後、横浜市青葉区を起点として、大学・大学院までの教育を見据えた理想の小中高一貫教育を展開していくために、新しい小学校と湘南藤沢中部部・高等部との間で、基礎学力の重視、教育内容上の連続性に留意しながら、カリキュラムの充実に向けて必要な協力を行っていきます。

一貫教育校の環境・施設の質と安全性の向上を目指して

女子高等学校では、クラス定員の少人数化に伴うクラス数の増加が予定されています。新しい南校舎（2011年3月竣工予定）の完成時期に合わせ、女子高等学校の教育環境の改善のために、三田キャンパス周辺に位置する施設

の再配置を行います（2012年度予定）。

中部部では、体育館およびプールの建て替え事業を実施しています。体育館の屋上には、テニスを主とした多目的コートとプールを配置します（2011年2月竣工予定）。

さらに、湘南藤沢中部部・高等部では、普通教室やAV教室などを収容する教室棟を増築します（2011年5月竣工予定）。新教室棟には、既存教室の形状と広さを見直した普通教室を12室設けます。また新たに、240人収容可能な大教室を設け、多人数授業、課外活動、集会やイベントなどへの対応を可能とします。



中部部体育館・プール完成イメージ



湘南藤沢中部部・高等部教室棟増築後のイメージ